

名称 フクボンシ

他名等 ゴシヨイチゴ

部位等 未成熟集果

備考

学名(科名) *Rubus chingii* Hu (Rosaceae) バラ科 韓国産のものは *R. Crataegifolius* Bunge, *R. coreanus* Miq.

生薬名 覆盆子

医薬品として使用実態があるか Yes 難波和漢薬に記載, ウチダ和漢薬で販売している

毒性データ (LD50 等) RTECS 同属のみあり

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

精油成分 Methoxy sec-Et acetate, Et acetate, α -pinene, β -pinene, camphene junipene, limonene, *p*-cymene, linalool and terpineol Zhiwu Ziyuan Yu Huanjing (1997), 6(2), 56-57, 60

Labdane-type diterpene glycosides from fruits of *Rubus foliolosus* (CPB (1991), 39(9), 2443-5 田中治先生)

diosphenol-type triterpene fupenzic acid (Phytochemistry (1988), 27(12), 3975-6、難波先生) 栃本天海堂から購入した *R. chingii* (難波恒雄が剖検)の実。

ellagic acid (Zhongcaoyao (1981), 12(6), 19)

主要な生理活性

強壯、強精薬 インポテンツ、小便頻数等に用いる

prevention of skin allergy, roughness and aging and atopic dermatitis (124:352365 CA 一丸ファルコス Jpn.

Kokai Tokkyo Koho, 10 pp

重要文献

Phytochemistry, 23, 615-621 (1984) 中国の甜茶(葉)の成分rubusosideは甘い。これは一応*R. chingii*とされたが、日本産のその葉は甘くない。甜茶の基源*R. suavissimus*と考えられる。実に関しては成分不詳。

その他注意すべき点

中国産甜茶=*R. suavissimus* (rubusosideを含む)は初め*R. chingii*と考えられた(ただし葉)。

BSH Class 2d Contraindicated in urinary difficulty 禁忌あり (実)

ComE *R. fruticosus*, *R. idaeus*があるが本植物の情報はない

sweetner rubusosideは同植物の葉より単離 Agricultural and Biological Chemistry (1981), 45(9), 2165-6

評価: A

BSHに禁忌があり安全性に配慮が必要である。

名称 ブクリヨウ

他名等 マツホド 英名 Poria Sclerotium (局方)

部位等 菌核

備考

学名 (科名) *Poria cocos* (Fr.) Wolf= (*Pachyma hoelen*, Rumph.) サルノコシカケ科 (Polyporaceae)

基原植物和名等 生薬名 茯苓

医薬品として使用実態があるか Yes 局方

210処方中74処方 (苓桂朮甘湯、五苓散等々) に使用

毒性データ (LD50 等) RTECS Danggui Shaoyao San, water extracts, was composed of seven medicinal plants 処方? のひとつとして oral rat TDL01.4g/kg

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

90%以上が多糖体pachyman (β -1,3 glucanの多糖体) からなる。その他ergosterol, lecithin, adenine, histidine, choline, 4環性トリテルペノイド: eburicoic acid, dehydroeburicoic acid, pachymic acid, tumulosic acid 3 β -hydroxy lanosta-7,9,(11),24-trien-21-oic acid等

(S)-(+)-turmerone, ergosterol peroxide, polyporenic acid C, dehydropachymic acid, pachymic acid, and tumulosic acid. *Archives of Pharmacal Research* (2004), 27(8), 829-833

Chemical components and molecular mass of six polysaccharides isolated from the sclerotium of *Poria cocos*: the main component of the sclerotium of *P.cocos*, was a linear (1.4 α -D-glucan) of high purity. *Carbohydrate Research* (2004), 339(2), 327-334

主要な生理活性

免疫活性 強心利尿薬

(薬徴) 主として動悸、筋肉がピクピクと痙縮するものを治す。また、小便が出にくいもの、めまい、煩悶し(苦しく)てもだえるものを治す。多くの薬理活性は弱い(利尿、強心等)

重要文献

Hattori, T., *et al.*: 50, 477(1989); 和漢医薬学会誌, 8, 432(1991) Pachymanの糸球体腎炎の治療

その他注意すべき点

北米産のものも同一種とされている(難波)

BSH 記載なし

評価: B

局方に収載されており 210 処方中 74 処方に用いられるなど医薬品として重要な生薬である。

名称 フジコブ

他名等

部位等 根茎 茎（コブ・根茎以外）は非医

備考 部位を根茎というのはおかしい。（フジコブ菌が寄生し生じた）瘤とすべき

学名（科名）フジ *Wistaria floribunda* DC. シナフジ *W. sinensis* Sweet. マメ科

基原植物和名等 生薬名 藤瘤（フジコブ、トウリュウ）

医薬品として使用実態があるか Yes

いぼとりの一般用製剤に使用 コイクシン（フジコブ、トウガシ、ヨクイニン、ヒシノミ、タクシャ含有）：剤盛堂薬品 和漢薬百科図鑑（難波）には無し。

毒性データ（LD50等）

RTECS *W. chinensis* DC（植物のもの） i.p. mouse LD50 > 1g/kg

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか

不詳

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか

不詳

主要な二次代謝産物等

seedにはレクチン flowerで精油の文献はあり、フジコブとしての文献なし フジの成分検索があっても準用はできない。虫瘤とすればタンニンか。しかし瘤は細菌性である。

主要な生理活性

口内炎、歯肉炎、扁桃炎などを目標に藤瘤1日量3～5gに300mlの水を加えて、1/3位になるまで煎じ詰めてこの煎汁でうがいをする。民間薬。ガン（胃がん、子宮がん）に効くといわれる。

重要文献

その他注意すべき点

WTTC処方（民間に伝えられた薬草処方 千葉大医 中山恒明昭和34年6月 日本医師会雑誌第41巻第12号に発表との記述がネット上にあり）と言う名でフジコブ含有健康補助食品が売られている <http://www.e-taiyo.jp/kenkou/wttc/wttcindex.htm>等ガンに効くとの宣伝が多い。生薬としては、フジ、シナフジとも使用されている。

BSH 記載なし

評価：D

医薬品としての使用実態はあるが、成分情報がなく判断できない。

名称 フタバアオイ

他名等

部位等 全草

学名 (科名) *Asarum caulescens* Maxim. (= *Japonasarum caulescens* (Maxim.) Nakai) ウマノスズクサ科 (Aristolochiaceae) フタバアオイ属 (平凡社日本の野生植物) 牧野では、カンアオイ属として分類しカモアオイ (賀茂葵) を別名と記載。 生薬名 牧野には土細辛の記載があるが、赤松、難波にはなし。

医薬品として使用実態があるか 用いられているとしても日本の民間薬だがNoに近い

毒性データ (LD50 等) RTECS

Asarum で 5 件ヒット *Asarum heterotropoides* FR. schmidt var. *mandshuricum*, extract oral mouse LD50 1.61g/kg i.p. mouse 330 mg/kg

Asarum canadense var. *reflexum* extracts LD50 i.p. mouse 5mg/kg

Asarum himalaicum Hook. F. et Thoms, extract oral mouse LD50 2.89g/kg, i.p. mouse 360 mg/kg

Asarum ichangense C. Y. cheng ET C. S. yang, extract, LD50 oral mouse 5.15g/kg, i.p. mouse 330mg/kg

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか

アリストロキア酸は含まないとの文献あり

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No
主要な二次代謝産物等

linalool, sesquiterpene alcs., germacra-1(10),4,7(11)-trien-9 α -ol and 2-methyl-2-vinyl-3-isopropenyl-5-isopropylidenecyclohexanol, Yakugaku Zasshi (1972), 92(7), 874-8 長沢元夫他

精油成分 Yakugaku Zasshi (1967), 87(12), 1529-34, Yakugaku Zasshi (1977), 97(4), 393-8, 天然物討論会要旨 21st (1978), 401-8 ten-membered ring sesquiterpene alcohol Tetrahedron Letters (1973), (10), 735-8 Horibe, Isao 他 sesquiterpenoids, Yakugaku Zasshi (1974), 94(12), 1574-9; *Chemical & Pharmaceutical Bulletin* (1979), 27(1), 275-8 長沢他 1-allyl-2,3,4-trimethoxybenzene 2, and 1-allyl-2,4,6-trimethoxybenzene (β -asaron の異性体) 4% 薬学雑誌(1967), 87(12), 1529-34

主要な生理活性 強心利尿薬

重要文献

Contents variation of aristolochic acid in the plants of Aristolochiaceae: about the related plants of Chinese herb Xixin Natural Medicines (Tokyo, Japan) (2003), 57(3), 105-109 フタバアオイはアリストロキア酸非検出

その他注意すべき点

ウスバサイシン属 (*Asiasarum*) との区別が重要

BSH 記載なし *A. canadensis*にはaristolochic acid含まれる。

評価: C

同属植物に発ガン物質の asaron や aristrochic acid が含まれており、また asaron の異性体の単離の報告があり、安全性について、引き続き調査を続ける必要がある。

名称 フラングラ皮

他名等 セイヨウイソノキ 英名 alder buckthorn (*R. frangula*), buckthorn bark

部位等 樹皮

備考

学名 (科名) *Rhamnus frangula* L. (Rhamnaceae) クロウメモドキ科

基原植物和名等 和名 セイヨウイソノキ

医薬品として使用実態があるか Yes Com E Buckthorn bark 西洋では良く使う

毒性データ (LD50 等) RTECS なし

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

1,8-dihydroxyanthracene derivatives

emodinの配糖体, glucofrangulins A and B, frangulins A and B及び遊離アントラキノン

DewickのMedicinal Natural Products に約6%のアントラセン誘導体を含むと記述されている。

主要な生理活性

便秘薬

便秘用下剤、腸障害、急成長炎、クローン病、潰瘍性大腸炎、虫垂炎、原因不明の腹痛の所持者、12才以下の子供、妊娠中の女性への使用はさける。カリウムの低下をおこすのでジキタリス等強心配糖体、チアジド系利尿剤、コルチコイド、甘草との併用はすすめられない。単回投与では胃腸のけいれん様の不快感があらわれることがあり、この場合は副用量を減らす。長期連用、過剰投与では、電解質 (特にカリウム) と水分バランスが壊れることがあり、専門家の指示が必要である。(Commission E)

重要文献

J P 2からJ P 8まで収載

その他注意すべき点

R. catharticus のfruitも利用されている(BSH)

BSH 2b Contraindicate in intestinal obstruction, abdominal pain of unknown origin, 他多数の禁忌 Do not use this product if you have abdominal pain or diarrhea. Consult a health care provider prior to use if you are pregnant or nursing. discontinue use in the event of diarrhea or watery stools. Do not exceed recommended dose. Not for lon-term use.

ComE: 禁忌は前述

北米ではカスカラサグダラ (*Rhamnus purshiana* DC) を良く使う、USPにある。カスカラサグダラと同様の食薬区分をすべき

評価: A

高濃度のエモジン誘導体を含む上、使用禁忌も多く、使用に関しては専門家の指示が必要と考えられる。

名称 ヘラオモダカ

他名等

部位等 塊茎

備考

学名 (科名) *Alisma canaliculatum* A.Br. et Bouche (Alismataceae, オモダカ科)

其原植物和名等 ヘラオモダカ (莖面高)

医薬品として使用実態があるか No 難波、赤松 ComEには記載なし

毒性データ (LD50 等) RTECS

Alisma plamtago で LD50 > 1g/kg i.p. rat

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか

主要な二次代謝産物等

範囲基準ガイドブックに alisol A, B (トリテルペノイド)との記載があるがヘラオモダカから確実に単離・検出されているのか確認できず。

anticoagulant polysaccharides Han'guk Nonghwa Hakhoechi (1996), 39(2), 159-164

主要な生理活性

沢瀉の代用なら利尿。

中国では大箭として全草を利尿、浮腫に使う (全国中草薬彙編・下冊)

重要文献

学名でCAを検索すると21ヒットだがでほとんどの文献がヘラオモダカへの除草作用のもの

日本野生植物館、46頁、小学館、サジオモダカの代用として用いられる

牧野には薬用としての記載なし。和漢薬百科図鑑 (難波恒雄) には沢瀉の代用との記載なし。

その他注意すべき点

A. orientale Juzepczuk はタクシャ (局方) 植物名サジオモダカ

BSH *A. orientale* (Sam.) Juzepczuk は 2d Prolonged use may cause gastrointestinal irritation.

雑草で田の除草剤の対象植物

評価 : D

成分不詳で判断材料がない。

名称 ベラドンナ属

他名等 ベラドンナ

部位等 根

備考

学名(科名) *Atropa* spp. ナス科 (Solanaceae)

基原植物和名等 オオカミナスビ属

医薬品としての使用実態があるか Yes 局方収載。

毒性データ (LD50 等) LD₅₀ = 22 mg/kg (mouse, i.p.)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

tropane alkaloids: atropine, hyoscyamine, tropine, apoatropine, belladonnine, scopolamine, norhyoscyamine, noratropine, calystegin A3, cuscohygrine, (-)-hygrine

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの(類似化合物)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

coumarins: scopoletin, umbelliferone

coumarin glucoside: scopolin

主要な生理活性

重要文献

牧野和漢薬草大図鑑 (p464), Phytochemical Dictionary 2nd Edition, Dictionary of Plant Toxins

その他注意すべき点

ベラドンナ属という名称は学術的には好ましくなく、他名等としてオオカミナスビ属を規定すべきである。

Botanical Safety Handbook Class 3 (*A. belladonna* L., atropine を total tropane alkaloids として 0.3-0.6% 含有。また、カナダでは食品への使用を認めていない)

The Complete German Commission E Monographs 禁忌：頻脈性不整脈、前立腺腫、閉塞隅角緑内障、急性肺水腫、消化管の機械的狭窄、巨大結腸。副作用：口渇、発汗の減少、調節障害、高熱、頻脈、排尿困難、幻覚、痙攣

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ) Yes

その場合の化合物情報

局方ベラドンナ根および局方ベラドンナエキスは劇薬であり、指定医薬品である。

局方硫酸アトロピンは毒薬であり、また指定医薬品である。

評価：A

ベラドンナ根、ベラドンナエキスが劇薬であること、毒薬であり指定医薬品である atropine を含むことから専ら医薬品とするべきである。

名称 ボウイ

他名等 オオツツラフジ、青風藤

部位等 根茎・つる性の茎

備考 根茎・つる性の茎は防已（ボウイ）と呼称される。

学名（科名） *Sinomenium acutum* Rehder et Wilson (Menispermaceae) ツツラフジ科

其原植物和名等 オオツツラフジ

医薬品として使用実態があるか Yes 局方収載

筋肉痛、神経痛、関節痛の緩和に、成人1日量10gを水約600mLで煎じ、食前または食間に3分服する。

配合漢方処方：疎経活血湯、独活湯、防已黄耆湯、防已茯苓湯（210 処方中4 処方）

毒性データ（LD50 等）

sinomenine: LD50 580mg /kg (mouse po), 285mg/kg (mouse ip)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

sinomenine, disinomenine, sinactine, tudaranine, acutumine, sinoacutine, *N*-demethyl-*N*-formyldehydronuciferine, magnoflorine, acutupyrrocoline

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

sinomenine, disinomenine, sinactine, tudaranine, acutumine, sinoacutine, *N*-demethyl-*N*-formyldehydronuciferine, magnoflorine, menisdaurilide, acutupyrrocoline, dihydroaquallegiolide

主要な生理活性

sinomenineには中枢抑制、血圧下降、ヒスタミン遊離抑制作用とそれに基づく局所鎮痛、抗炎症作用などが認められる。

重要文献

- 1) Nozaka, T. *et al.*, *Chem. Pharm. Bull.*, **35**, 2844 (1987)
- 2) Otsuka, H. *et al.* *Phytochemistry*, **33**, 389 (1993)
- 3) Moriyasu, M. *et al.*, *Nat. Med.*, **48**, 287-290 (1994)
- 4) Honzumi, M. *et al.*, *Tet. Lett.*, **43**, 1047-1049 (2002)

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook 無記載

The Complete German Commission E Monographs 無記載

評価：A

局方収載生薬で漢方処方にも配合されており、またアルカロイド成分も含有しており、安全性に十分な配慮が必要であることから専ら医薬品と考えられる。

名称 ボウコン

他名等 ハクボウコン、ビャクボウコン

部位等 根茎

備考 根茎は茅根（ボウコン）と呼称される。

学名（科名） *Imperata cylindrica* Beauvois (Gramineae) イネ科

其原植物和名等 チガヤ

医薬品として使用実態があるか Yes 局方収載

むくみに煎用するかまたは配合剤として用いる。1日最大分量 12 g。

毒性データ (LD50 等)

なし (参考) Extract excluding root: LD50 1g/kg (mouse ip)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

cylindrin, arundoin, fernenol, simiarenol, isoarborinol (triterpenoid), graminone A, B, (lignan derivatives), imperanene, cylindol A, B, cylindrene

主要な生理活性

重要文献

- 1) Nishimoto, K. *et al.*, *Tetrahedron*, **24**, 735 (1968)
- 2) Matsunaga, K. *et al.*, *J. Nat. Prod.*, **57**, 1183 (1994)
- 3) Matsunaga, K. *et al.*, *J. Nat. Prod.*, **57**, 1290 (1994)
- 4) Matsunaga, K. *et al.*, *J. Nat. Prod.*, **57**, 1734 (1994)
- 5) Matsunaga, K. *et al.*, *J. Nat. Prod.*, **58**, 138 (1995)
- 6) Tanaka, K. *et al.*, *薬誌.*, **72**, 616 (1952)

その他注意すべき点

本植物に寄生した麦角菌が麦角アルカロイドを産生するとの報告がなされている。

Botanical Safety Handbook class 1 (Herbs that can be safely consumed when used appropriately) P. 63

The Complete German Commission E Monographs 無記載

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか 含まない

評価：A

局方収載生薬で、麦角菌が寄生する可能性があり、安全性に十分な配慮が必要であることから専ら医薬品と考えられる。

名称 ホウセンカ

他名等

部位等 種子

備考 種子以外は「非医」、種子は急性子（キュウセイシ）と呼称される。

学名（科名） *Impatiens balsamina* L. (Balsaminaceae) ツリフネソウ科

其原植物和名等 ホウセンカ

医薬品として使用実態があるか Yes 中国薬典収載

我が国では民間薬として閉経、便秘、難産、胃つかえなどに用いる。用量：1日2~3g。

毒性データ (LD50 等)

Extract: LD50 750mg/kg (mouse ip)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

hosenkol A-C, hosenkosides A- O (triterpenoid), balsaminone A, B, diphthiocol, impatienol, lawsone (naphthoquinone derivatives), 4, 4'-biisofraxidin, syringic acid, *Impatiens balsamina* antimicrobial peptides (Ib-AMP1-4)

主要な生理活性

陣痛促進、子宮収縮作用が認められている。

重要文献

- 1) Shoji, N. *et al. Tetrahedron*, **50**, 4973 (1994)
- 2) Shoji, N. *et al. Phytochemistry*, **37**, 1437 (1994)
- 3) Shoji, N. *et al. Chem. Pharm. Bull.*, **42**, 1422 (1994)
- 4) Panichayupakaranant, P. *et al. Phytochemistry*, **40**, 1141 (1995)
- 5) Panichayupakaranant, P. *et al. Planta Med.*, **64**, 774-775 (1998)
- 6) Ishiguro, K. *et al. J. Nat. Prod.*, **61**, 1126-1129 (1998)
- 7) Oku, H. *et al. Biol. Pharm. Bull.*, **25**, 658-660 (2002)
- 8) Tailor, R. H. *et al., J. Biol. Chem.*, **272**, 24487 (1997)
- 9) 原色日本薬用植物図鑑 p 128
- 10) 中薬大辞典 p 456

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook 無記載

The Complete German Commission E Monographs 無記載

評価：C

中薬大辞典に子宮収縮作用に関する記載があるが、CA において学術論文としての報告がないため、さらに調査を継続する必要があると考えられる。

名称 ホウビソウ

他名等

部位等 全草

備考 根を含む全草は鳳尾草（ホウビソウ）と呼称される

学名（科名） *Pteris multifida* Poir. (Pteridaceae)イノモトソウ科

其原植物和名等 イノモトソウ

医薬品として使用実態があるか No（ただし民間薬としての使用実態はある）

解熱、解毒に1日量10~20g、生のものなら30~60gを煎じて服用する。止血、消腫にはこの煎液で患部を洗うか、粉末を患部に散布する。

毒性データ（LD50等）

Extract: LD50 >1g/kg (rat ip)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

2,15-kauranediol, 2,16-kauranediol, 16-kaurene-2,15-diol (diterpenoid), creticoside A, B (diterpenoid glycosides)
pterosin S

主要な生理活性

急性細菌性下痢、伝染性肝炎、胆道疾患等の治療に用いる。

重要文献

1) Woerdenbag, H. J. *et al.* *Z. Naturforsch.*, **51**, 635-638 (1996)

2) 中薬大辞典 p 2392

3) 新訂牧野和漢薬草大図鑑 p 689

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook 無記載。

The Complete German Commission E Monographs 無記載

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分含むか 含まない

評価：C

発がん性のある成分（ptaquiloside）の分解産物と考えられる成分（pterosin類）を含み、かつptaquilosideを含む可能性が否定できないため、引き続き調査を行う必要があると考えられる。

名称 ボウフウ

他名等

部位等 根および根茎

備考 根および根茎は防風（ボウフウ）と呼称される

学名（科名） *Saposhnikovia divaricata* Schischkin (Umbelliferae) セリ科

其原植物和名等 ボウフウ

医薬品として使用実態があるか Yes 局方収載

漢方処方薬として、皮膚疾患用薬、消炎排膿薬、鎮痛薬とみなされる処方およびその他の処方に配合されている。

210 処方中の配合処方：(17 処方) 駆風解毒湯、荊芥連翹湯、荊防敗毒散、十味敗毒湯、消風散、泰九姜活湯、清上燭痛湯、清上防風湯、川弓茶調散、疎経活血湯、治頭瘡一方、鈎藤散、独活湯、防風通聖散、立効散

毒性データ (LD50 等)

Root: LD50 214mg/kg (mouse oral); carotatoxin LD50 100mg/kg (mouse parenteral)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No
主要な二次代謝産物等

3S-hydroxydeltoin, divaricatol(coumarin derivative), carotatoxin, panaxiol(polyacethylene derivative),
9-hydroxy-8-hexadecanone

主要な生理活性

煎出エキスはラット経口投与でアジュバント関節炎を抑制する。30%エタノールエキスから脂溶性成分および糖画分を除いたエキスは経口投与でマウス自発運動抑制、ヘキソバルビタール睡眠延長、酢酸 writhing 及び水浸拘束ストレス胃潰瘍抑制などの諸作用を示す。

重要文献

- 1) Okuyama, E. *et al. J. Nat. Prod.*, **61**, 658-659 (1998)
- 2) Okuyama, E. *et al. Chem. Pharm. Bull.*, **49**, 154-160 (2001)
- 3) Bentley, R. K. *et al. J. C. S. (C)*, 685 (1969)
- 4) Hirakura, K. *et al. Phytochemistry*, **31**, 899-904 (1992)

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook 無記載.

The Complete German Commission E Monographs

評価：A

劇薬相当の成分（carotatoxin）を含有しており、専ら医薬品と考えられる。

名称 ホオウ

他名等

部位等 花粉

備考 花粉以外は「非医」、ガマ、ヒメガマ以外の花粉は「非医」。花粉を蒲黄（ホオウ）と呼称する。

学名（科名） ①*Typha latifolia* L. ②*Typha angustata* Bory et Chaub. (Typhaceae) ガマ科

其原植物和名等 ①ガマ ②ヒメガマ

医薬品として使用実態があるか Yes (OTC としての使用実態はある)

内服薬としては、下血、吐血に1回量1gを1日3回服用する。また煎薬の場合、1回量5~10gを水400mLを加え、半量になるまで煎じて3回に分けて服用する。

毒性データ (LD50 等) ② Extract: 250mg/kg (rat ip)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No
主要な二次代謝産物等

Typha latifolia: 5,6-epoxy-7-megastigmene-3,9-diol (terpenoid), calendoflavoside, calendoflavobioside (flavonoid), typhasterol, ergosterol peroxide (sterol), leucrose

Typha angustata: typhaeoside (flavonoid), 6-hentriacontanol, 7-methyl-4-triacontanone, 6,8-nonacosanediol, 6,10-nonacosanediol, 6,21-nonacosanediol, 6-tritriacontanol (wax), typhic acid (phenolic derivative)

主要な生理活性

ガマの花粉は外傷、吐血、血便、子宮出血、痔などのほか、通経、産後の下腹部痛に用いる。

重要文献

- 1) Della Greca, M. et al. *J. Nat. Prod.*, **53**, 972 (1990)
- 2) Jia, S. et al. *Yaoxue Xuebao*, **21**, 441-446 (1986)
- 3) Ceska, O. et al. *Phytochemistry*, **23**, 1822-1823 (1984)
- 4) Liu, F. et al. *CA*, **103**, 11305 (1985)
- 5) Jia, S. et al. *Zhiwu Xuebao*, **32**, 465 (1990)
- 6) Ukiya, M. et al. *Chem. Pharm. Bull.*, **48**, 1187-1189 (2000)
- 7) Xu, L. et al. *Huaxue Xuebao*, **22**, 433 (1987)
- 8) 日本薬草全書 p 151

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook 無記載.

The Complete German Commission E Monographs 無記載

評価：C

医薬品の成分としては使用されているが、直接的な毒性データが乏しいため、さらに調査を継続する必要があると考えられる。

名称 ボタンビ

他名等

部位等 根皮

備考 葉・花は「非医」。根皮は牡丹皮（ボタンビ）と呼称される

学名（科名） *Paeonia suffruticosa* Andrews (Paeoniaceae) ボタン科

其原植物和名等 ボタン

医薬品として使用実態があるか Yes 局方収載

主として漢方処方薬であり、婦人薬とみなされる処方およびその他の処方に配合されている。

210 処方中の配合処方：15 処方 温経湯、加味帰脾湯、加味逍遥散合四物湯、弓婦調血飲、弓婦調血飲
第一加減、桂枝茯苓丸、桂枝茯苓丸加意苡仁、甲字湯、牛膝散、牛車腎気丸、折衝飲、大黄牡丹皮湯、
八味地黄丸、六味地黄

毒性データ（LD50 等）

Extract: micronucleus test 750mg/kg (mouse ip), cytogenic analysis 3g/kg (mouse ip); paeonol LD50 490mg/kg
(mouse oral); paeoniflorin LD50 3530mg/kg (mouse ip)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

paeonol, paeonioside, paeonolide, suffruticoside A-E, mudanoside A (phenol derivative), paeoniflorin,
oxypaeoniflorin, mudanpioside F, G, paeonisuffral, isopaeonisuffral (monoterpenoid), mudanpionic acid
(triterpenoid)

主要な生理活性

鎮咳、去痰、緩和作用が認められ、粘滑性消炎、強壯、去痰、鎮咳薬として咳止め、去痰、滋養強壯な
どに用いられる。

重要文献

- 1) 刈米達男ら 薬誌, 76, 917, 927 (1956)
- 2) Matsuda, H. et al. *Chem. Pharm. Bull.*, 49, 69-72 (2001)
- 3) Dinga, H.-Y. et al. *Chem. Pharm. Bull.*, 47, 652-655 (1999)
- 4) Lin, H.-C. et al. *J. Nat. Prod.*, 61, 343-346 (1998)
- 5) Yoshikawa, M. et al. *Chem. Pharm. Bull.*, 41, 630 (1993), 42, 736 (1994)
- 6) 210 処方生薬解説 p136

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook class 2b (Not to be used during pregnancy) P. 80

The Complete German Commission E Monographs 無記載

評価：A

局方収載生薬で多数の漢方処方に配合されている重要生薬であり、また BSH に禁忌も記載されており、安全性に十分な配慮が必要であることから専ら医薬品と考えられる。

名称 ポドフィルム

他名等 ヒマラヤハッカクレン (*Podophyllum emodi* Wall)、mayapple root

部位等 根・根茎

備考

学名 (科名) *Podophyllum peltatum* L. (Berberidaceae) メギ科

其原植物和名等 ポドフィルム・ペルタツム

医薬品として使用実態があるか Yes Com E

毒性データ (LD50 等)

podophyllotoxin: LD50 100mg /kg (mouse po)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

podophyllotoxin, dehydro podophyllotoxin, podophyllotoxin- O- β -glucopyranoside, α -peltatin, β -peltatin, β -peltatin 6-O- β -glucopyranoside, β -peltatin 6-O- β -glucopyranoside, podoblasin A-C

主要な生理活性

ポドフィロトキシンには抗癌作用が認められている。また駆虫作用、瀉下作用が認められている。

重要文献

- 1) Hartowell, J. L. et al. *J. A. C. S.*, **73**, 2909 (1951)
- 2) Kofod, H. et al. *Acta Chem. Scand*, **8**, 1296 (1954)
- 3) Miyakado, M. et al. *Chem Lett.*, 1539 (1982)
- 4) Hartowell, J. L. et al. *J. A. C. S.*, **72**, 246 (1950)
- 5) Stoll, A., et al., *J. A. C. S.*, **76**, 6413 (1954).
- 6) 新訂牧野和漢薬草大図鑑 p 706

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook class 2b (Not to be used during pregnancy), 3 P. 89

The Complete German Commission Monographs p 168

評価: A

劇薬相当の成分 (podophyllotoxin) を含有しており、専ら医薬品と考えられる。

名称 マオウ

他名等 草麻黄、中麻黄、木賊麻黄

部位等 地上茎

備考 地上茎を麻黄（マオウ）と呼称する。

学名（科名） *Ephedra sinica* Stapf, *E. intermedia* Schrenk et C. A. Meyer, *E. equisetina* Bunge (Ephedraceae) マオウ科

基原植物和名等 マオウ

医薬品としての使用実態があるか Yes 局方収載、Com E 収載

漢方処方用薬であり、鎮咳去痰薬、気管支拡張薬、鼻炎用薬、解熱鎮痛消炎薬とみなされる処方およびその他の処方に配合されている。

210 処方中の配合処方：(17 処方) 葛根湯、葛根湯加川弓辛夷、杏蘇散、桂麻各半湯、五虎湯、五積散、小青竜湯、小青竜湯石膏、小青竜湯合麻杏甘石湯、泰九姜活湯、神秘湯、独活葛根湯、防風通聖散、麻黄湯、麻杏甘石湯、麻杏意甘湯、意苡仁湯、

毒性データ (LD50 等)

Extrct (herba): LD50 3500mg/kg (rat oral), ephedrine: LD50 600mg /kg (rat po), pseudoephedrine: LD50 660mg /kg (rat po)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

ephedrine, pseudoephedrine, norephedrin, ephedroxane, *N*-methylephedrine, *N*-methylpseudoephedrine

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの（類似化合物）及びその原料植物であるか Yes

ephedrine（覚せい剤原料）

主要な二次代謝産物等

ephedrine, pseudoephedrine, norephedrin, ephedroxane, *N*-methylephedrine, *N*-methylpseudoephedrine

主要な生理活性

交換神経興奮、中枢興奮、鎮咳、気道分泌促進、抗炎症、子宮筋収縮抑制、気管支筋弛緩など

重要文献

1) 第 14 改正日本薬局方解説書 p D-1092-1094

2) 210 処方生薬解説 p 6

その他注意すべき点

マオウを大量に服用するとエフェドリンの過剰摂取になり、エフェドリン中毒になる恐れがある。マオウの大量使用には注意を要する。

Botanical Safety Handbook Class 2b, 2c, 2d p. 45

The Complete German Commission E Monograph p. 125

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか 含む (ephedrine)

評価：A

覚せい剤原料であるアルカロイド (ephedrine) が含有されており、専ら医薬品と考えられる。

No. 名称	他名	薬用部位等	備考	学名	科名	起源植物科名等	医薬品としての使用実態	アルカロイド、毒薬類成分	医薬品精製・規定している作用	毒性データ	B/S handbook	評価理由
76. ゴンズ<半藤>	イノコズチ化ナグ イノコズチ	根		① <i>Achyranthes fauriei</i> Leveille et Vaniot (ヒナ タイノコズチ) ② <i>A. bidentata</i> Blume (イ ノコズチ)	Amaranthaceae ヒユ科	イノコズチ/ ヒナタイノコズチ	同方	構造不明のアルカロイド		LD50 = 147 g/kg mouse, oral		同方収載生薬であるため専ら医薬品としておくこ とが望ましいが、食品として不適当なほど毒性が 強いわけではない。構造不明のアルカロイドを含む が、含量が低く、また粗抽出物の毒性が低い。
77. ゴンジュ<貝菜黄>	ホンゴシユユ	果実		① <i>Evoidia rivinacarpa</i> Benth ② <i>E. officinalis</i> Dode	Rutaceae ミカン科	ゴシユユ	同方	evodiamine, dehydroevodiamine, rutacarpine, higenamine, evocarpine, (-)-synephrine		Crude extract: TDLo = 20 g/kg, mouse, oral	Class 2d	同方収載生薬であること、毒性の低い(+) synephrineを含有すること(TDLo = 1 mg/kg bw, mouse, subcutaneous)、また、子宮収縮作用のあ るアルカロイドが含有されていることから、専ら医 薬品としておくべきである。
78. コジョウクコン<虎杖根>	イタドリ	根茎	若井は「非 医」	<i>Polygonum cuspidatum</i> Sieb et Zucc.	Polygonaceae タデ科	イタドリ	○					わが国で医薬品としての使用実態があるため専ら 医薬品としておくことが望ましいが、食品として不 適当なほど毒性が強いわけではない。煎下作用 のあるamedin-8-glucoisideを含むが、含量は1%以 下である。
79. コハイバ	Copaifera officinalis	樹脂	コハイバ (Copaifera langsdorffii)の 樹脂は「非 医」	<i>Copaifera officinalis</i>	Leguminosae マメ科		*			LD50 = 3.79 ml/kg, rat, oral		わが国においては医薬品としての使用実態がな く、β-carophylleneやα-sesaneなど、含有成分の 毒性も低い。また、「非医」Jリスト収載のCopaifera langsdorffiiと区別して取り扱うことも困難である。 そのため、食薬区分の見直し対象になり得ると考 えられる。
80. ゴハイシ<五倍子>	ヌルデ	葉状虫糞		<i>Rhus javanica</i> L.	Anacardiaceae ウルシ科	ヌルデ(フシノキ)	*					わが国における使用実態は民間薬としてのものが あるのみで少ない。毒性も低く、食薬区分の見直 し対象になり得ると考えられる。
81. コハク<職用>		古代マツ科植物 樹脂の化合物		<i>Pinus succinifera</i>	Pinaceae マツ科		*					わが国においては医薬品としての使用実態がな く、abietic acidやsuccinic acidなど、含有成分の毒 性も低いため、食薬区分の見直し対象になり得ると 考えられる。
82. ゴボウシ<半秀才>	ゴボウ	果実	根・葉は「非 医」	<i>Arcium lappa</i> L.	Compositae キク科	ゴボウ、キタイス、 キタクス、 ウマアブキ	同方			Extract: LD50 = 681 mg/kg, mouse, i.p.	Class 1	同方に収載されているがわが国では明らかに医 薬品として使用されているため専ら医薬品として おくことが望ましいが、食品として不適当なほど毒 性が強いわけではない。
83. ゴミシ<五味子>	チョウセンゴジシ	果実		<i>Schisandra chinensis</i> Baill.	Schisandraceae マツブサ科		同方			チンキ: LD50 = 4 ml/kg, mouse, oral		同方に収載されているがわが国では明らかに医 薬品として使用されているため専ら医薬品として おくことが望ましいが、食品として不適当なほど毒 性が強いわけではない。
84. コロシントウリ		果実		<i>Citrullus colocynthis</i> (L.) Schrad.	Cucurbitaceae ウリ科		Com E	colocynthin: LD50 = 40 mg/kg, mouse, oral				A 峻下劑であり、また、毒性の強いcolocynthin (elaterinide)を含む。
85. コロンボ		根		<i>Jatropha columba</i> Miers	Menispermaceae ツノアザミ科		同方	palmitine: LD50 = 135 mg/kg, mouse, subcutaneous, jatrochuzine, columbamine				同方収載の医薬品であり、ペルベリン系アルカロ イドであるpalmitine, jatrochuzine, columbamineを 含む。
86. コンズランゴ		樹皮		<i>Marsdenia condurango</i> Retz, fil.	Asclepiadaceae ガガイモ科		同方 Com E	condurangoglycoside A ₁ : LD50 = 75 mg/kg, mouse				同方に収載されているがわが国では明らかに医 薬品として使用実態がある。抗腫 瘍活性をもつcondurangoglycosidesの含有が知ら れている。特にcondurangoglycosides A ₁ の毒性は 75 mg/kgと劇薬相当である。

87	サイコ<薬用>	根	薬は「非医」	<i>Bupleurum falcatum</i> L.	Umbelliferae セリ科	ミンマサイコ (カマクラサイコ)	局方			Extract: LD50 = 50 mg/kg, rat, i.p.	Class I	A	局方収載であり、主要な漢方処方に使用されるなどわが国で医薬品として常用されている。また、抽出物が劇薬相当の毒性を示すとのデータが発表されている。したがって、専ら医薬品としておくべきである。
88	サイン<編辛>	根・根茎	葉・薬は「非医」	① <i>Asiosorum sieboldii</i> F. Maackawa ② <i>A. heteroropoides</i> F. Maackawa var. <i>menadshuricum</i> F. Maackawa	Aristolochiaceae ウマノスズクサ科	ウスハサイニン ケイリンサイニン	局方	higenamine (LD50 = 3350 mg/kg, mouse, oral)			A	A	局方に収載されていて、わが国で薬用される重要な医薬品であること、アルカロイドhigenamineを含有していること、地上部に毒性の強いアリストロキア酸を含有していることから、専ら医薬品としておくべきである。
89	サビナ	枝葉・球果		<i>Juniperus sabina</i> L.	Cupressaceae ヒノキ科	サビナビヤクシン	O	deoxypodophyllotoxin, deoxypicropodophyllotoxin, β-peltatin A methyl ether			A	A	劇薬相当のpodophyllotoxinの類縁体を含む。
90	サヨウ<薬用>	全草		<i>Cynomorium cochinum</i> L.	Cynomoriaceae キノモリア科	オンヤウジタケ	x		LD50 = 9400 mg/kg mouse, oral		E	E	国内においては医薬品としての使用文数がなく、また毒性も低い。
91	サルカガミカン	茎		<i>Toadalia asiatica</i> Lam.	Rutaceae ミカン科		x	berberine, icodiquinoline, benzof[6]phenanthridine alkaloids, 4 known quinoaline alkaloids	i.p. mouse > 1g/kg berberine sulfate trihydrate i.p. mice 24.3 mg/kg (merck), RTECS berberine HCl 2H2O, LD50 i.p. rat 138 mg/kg 他		A	A	毒性が高いと考えられるアルカロイドが多数入っている。
92	サルサ	根	薬は「非医」	① <i>Smilax aristolochifolia</i> , <i>S. regelii</i> , <i>S. febrifuga</i> 等 ② <i>Smilax china</i>	Smilacaceae サルトリイバラ科 or ユリ科、 Liliaceae		局方 Com E				E	E	サルサ及びサルサバリラでは植物が特定できず、混品を招くので、判断の範囲を <i>Smilax glabra</i> 以外の <i>Smilax</i> 属とするのが適切である
93	サウキキョウ	全草		<i>Lobelia sessilifolia</i> Lam.	Campanulaceae キキョウ科		x	The total alkaloid content of <i>L. sessilifolia</i> L. is 0.133% Lobeline (?)	L. pyramidalisでi.p. mouse LD50 750mg/kg		A	A	アルカロイド含量が高く、neurotoxicなlobelineが入っている可能性が高い
94	サンキライ<山崩薬>	塊茎、根茎	薬は「非医」	<i>Smilax glabra</i> Roxburgh	Liliaceae ユリ科	クナンサルトリイバラ	局方				B	B	医療用重要な同方生薬である。
95	サンショウゴン<薬用>	根	食用ホオズキの果実は毒 <i>P. angulata</i> : Chinese lantern, Chinese ground-cherry, ground cherry	<i>Physalis alkekengi</i> L. var. <i>franchetii</i> (Masters) Hort.	Solanaceae ナス科		O	The total alkaloid content varied 0.02-0.25% liguloidine(3%) 3α-glycyloxypropane (31%) and cuscohygrine(20%)	植物RTECS変異原性のみ RTECS physalin X, LD50, oral mouse, >28g/kg		A	A	<i>P. alkekengi</i> でアルカロイドが一定量入っていることが知られており、また民間薬としての使い方を考えると従来の危険性がある。